

公衆衛生学

科目責任者 小 橋 元
学年・学期 4 学年・前期

I. 前 文

公衆衛生学は、患者一人ひとりの病気の診断と治療を課題とする臨床医学とは異なり、組織化された社会的活動により、主に集団レベルで疾病の予防を課題とする。問題を単に個人的な問題としてではなく、個人を取り巻く環境・社会との関連において考え、社会制度としての公衆衛生活動を立案・実践していく。公衆衛生学は衛生学や法医学などと共に、社会医学の一分野を構成しているが、保健医療福祉が社会との関わりの中で実践されることから、医師の社会的責任についても取り扱う。また一方で、社会医学という言葉は、社会の在り方が生み出す健康障害の予防、社会における人間の権利擁護に関わる医学的問題を解決する実践研究医学も意味する。私たちの知っている世の中ではみんなが「人が人として人間らしく生きる」ことができているだろうか。すなわち、病院の中にいると時として忘れてしまいがちな「すべての人々の日常生活や健康への熱い思いと優しい眼差し」、声を出せない弱い立場の者を代弁し、その声を届けて社会を動かすことも大切である。

本講義では、こうした公衆衛生学のこころ、広く暖かく鋭い視野を、臨床医学との関わりにおいても実感し、深く考察してもらうために、様々な専門分野のエキスパートによる講義、双方向授業等を行う。ぜひ知識や技術を身につける根本となる「こころ」の部分を感じる時間にしてほしい。

II. 担当教員

教授	小 橋 元	公衆衛生学
教授	春 山 康 夫	公衆衛生学
教授	齋 藤 登	埼玉医療センター 総合診療科
特任教授	中 川 恵 一	東京大学大学院 医学研究科
准教授	遠 藤 源 樹	公衆衛生学
講 師	松 原 優 里	公衆衛生学
助 教	阿 部 美 子	公衆衛生学
非常勤講師	岩 室 紳 也	ヘルスプロモーション推進センター〔オフィスいわむろ〕
非常勤講師	島 内 憲 夫	順天堂大学
外部講師	内 山 浩 志	桐生大学
外部講師	駒 橋 徹	鹿沼病院
外部講師	神 馬 征 峰	東京大学大学院 医学研究科
外部講師	中 村 好 一	宇都宮市保健所

III. 一般学習目標

・公衆衛生の考え方とその方法論を理解し、社会の様々な枠組みで行われている保健医療福祉活動が、社会の健康増進と疾病予防、そして臨床医学においてもどのように役立っているかを学習する。同時に医師の社会的責任、さらに公衆衛生と臨床医学の関わりについて学び、広く暖かく鋭い視野を身につける。

IV. 学修の到達目標

- 1) 公衆衛生の考え方について説明できる。
- 2) 健康の概念、健康障害の発生要因および予防の意義について説明できる。
- 3) わが国の保健医療制度を説明できる。
- 4) 医の倫理と医師の法的義務について説明できる。
- 5) 保健医療統計と国民の健康状態について説明できる。

- 6) 健康づくりと健康管理の方法について説明できる。
- 7) 国際保健について説明できる。
- 8) 各ライフステージにおける健康問題の特徴と対策を説明できる。
- 9) 臨床医学における公衆衛生の重要性について説明できる。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ, 知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)
 2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
 6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1	4	6	月	4	公衆衛生学概論	小 橋 元	1
2		6	月	5	地域保健福祉・地域医療	小 橋 元	1
3		8	水	1	成人保健, 健康増進, 生活習慣病	春 山 康 夫	1
4		8	水	2	母子保健/学校保健	松 原 優 里	1
5		8	水	3	地域保健	中 村 好 一	1
6		8	水	4	思春期保健	岩 室 紳 也	1
7		9	木	1	障害者福祉	内 山 浩 志	1
8		9	木	2	人口統計, 疾病統計	遠 藤 源 樹	1
9		9	木	3	国際保健/ヘルスプロモーション	神 馬 征 峰	1
10		13	月	1	精神障害者の福祉	駒 橋 徹	1
11		13	月	2	院内・地域連携クリニカルパス	齋 藤 登	1
12		13	月	3	がん治療の臨床から健康教育, そして公衆衛生	中 川 恵 一	1
13		15	水	1	社会保障, 医療保険, 国民医療費	阿 部 美 子	1
14		15	水	2	WHOヘルスプロモーション~オタワ憲章とバンコク憲章~	島 内 憲 夫	1
15		15	水	3	これからの社会と公衆衛生	小 橋 元	1

VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

原則として, 定期試験 (80%), 講義中の小テスト・レポート, 出席状況 (20%) によって総合評価する。
 なお, 定期試験問題内の英語問題は「医学英語Ⅳ」の評価として集計される。

VII. 教科書・参考図書・AV 資料

教科書

公衆衛生がみえる メディックメディア

図説 国民衛生の動向・2025/2026年版 厚生労働統計協会

参考図書

学生のための医療概論（第4版） 医学書院

VIII. 質問への対応方法

- ・原則的には、講義の中で対応する。
- ・担当教員に連絡し、オフィス・アワーもしくは指定された日時に質問に行くこと。

連絡先：公衆衛生学講座（総合教育研究棟11階／TEL：0282-87-2133, e-mail：pubhealth@dokkyomed.ac.jp）

月～金曜日（祝日を除く） 8：30～17：00

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	◎
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	○
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	◎
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	○
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	○

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験の内容については非公開。レポートのフィードバックは課題による。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

シラバス別冊に記載。なお、シラバス別冊に記載が無い場合、事前オンデマンド講義等を参考にして要点を確認しておくこと。（所要時間の目安30分）

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載。なお、シラバス別冊に記載が無い場合、要点を確認しておくこと。